

2010年度 法科大学院 法学既修者認定試験 刑法

以下の【問題1】および【問題2】について解答しなさい。

【問題1】

過剰防衛における必要性と相当性について簡潔に説明しなさい。

【問題2】

以下の事例において、X、YおよびZの罪責について論じなさい。

貸しビル業を営むはX、最近、資金繰りに窮していたので、自己の所有するビルをAに売ることにした。XとAは、同ビルの売買契約書を作成し、署名・押印の上、両者でこれを保管するとともに、関係書類をXが準備して、所有権移転登記をすることを確約し、Xは売買代金3000万円の小切手を受け取った。

一方、Xの妻Yは、かねてより友人Zから上記ビルを、是非、売ってほしいといわれていたが、Aに同ビルを売買する話が進んでいることを話したところ、Zから「なんとか売ってもらえないか」と懇願され、その旨をXに話した。

翌日、交渉のため3人が集まり、Xは、すでにAとは売買契約を締結し、その代金を小切手で受け取っていることをZに話した。Zは、「まだ登記が終わってないなら、僕に売ってください。先に登記してしまえば、なんとでもなります。」と言ったので、XとYは、Zの熱意に負けて、これに同意し、上記建物をZに売却する旨の売買契約を締結して、売買代金3500万円を現金で受け取った。

Zは、翌日、上記建物の所有権移転登記をした。